

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-325	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
<p>A Randomized Controlled Pilot Trial of Different Mobile Messaging Interventions for Problem Drinking Compared to Weekly Drink Tracking. 問題飲酒に対する異なるモバイルメッセージの発信介入を毎週の飲物追跡と比較する無作為抽出パイロット試験。</p>		
執筆者		
<p>Muench F¹, van Stolk-Cooke K¹, Kuerbis A², Stadler G³, Baumel A¹, Shao S¹, McKay JR⁴, Morgenstern J¹.</p>		
掲載誌		
<p>PLoS One. 2017 Feb 1;12(2):e0167900. doi: 10.1371/journal.pone.0167900.</p>		
キーワード		PMID:
モバイルメッセージ、問題飲酒、インターネット		28146560
要 旨		
<p>序論: 最近の証拠によれば、テキストメッセージングは、本人へ直接行うサービスの延長として飲酒問題を減らすのに役立つかもしれないが、独立した介入としての問題飲酒への遠隔メッセージングの有効性や、アルコール消費を抑えることを望んでいる人々に異なるタイプのメッセージが飲酒結果を改善するのかはほとんど明らかになっていない。</p> <p>方法: 我々は、インターネットで飲酒を減らそうとしている 152 人の参加者を募集し 12 週間にわたる飲酒結果への影響を決定するために、1 グループあたり約 30 人の 4 群をつくり探索的な一重盲検無作為化対照試験研究を行った。毎日から 1 週間ごとに自己追跡テキストを飲むために 4 種類のアルコール削減テキストメッセージを毎日送り比較した。それらは、毎週の飲酒のセルフトラッキング・モバイル・アセスメントテキスト (MA)、ロス・フレームテキスト (LF)、ゲイン・フレームテキスト (GF)、静的手直しテキスト (ST)、適応可能な手直しテキスト (TA) が含まれる。ポアソン回帰および最小自乗回帰を用いて、各アクティブメッセージンググループと MA コントロール群との間の差異を比較した。</p> <p>結果: ベースラインの飲酒を調整すると、GF を除くすべてのメッセージンググループの参加者は、MA に比べて週に飲んだ飲み物の数と飲み過ぎる日数を大幅に減らした。TA と GF 群のみが飲酒日数の減少において MA と有意に異なっていた。TA グループはすべてのアウトカム指標でサイズとして最大の効果を示したが、アウトカム指標ではアクティブメッセージンググループ間に有意差はなかった。この研究に登録された個人の 79.6% は、研究終了時にさらに 12 週間メッセージを受信し続けたいと考えていた。</p> <p>討論: このパイロットスタディの結果は、毎日配信される遠隔自動テキストメッセージが、1 週間に 1 回の自己追跡のメッセージだけに比べて、成人の問題飲酒者において飲酒頻度と飲酒量を減らすのに役立つことを示した。個人向けに手直しされた適応テキストは、MA と比較した結果全体において最も大きい効果の大きさを得た。その効果のメカニズムを理解し、その有効性の機序を解明するためには、より大きなサンプルが必要である。</p>		